

観る者をドキりとさせるようなアイロニー 「吉田 朗展」開催のお知らせ



右、タイトル:「DARUMA basket case」 素材:ガラス繊維強化プラスチック 塗料:ウレタン塗膜エポキシによる彩色 サイズ:H26xW26x28cm

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。この度、Hideharu Fukasaku Gallery Roppongiでは、2016年4月18日(月)～30日(土)まで、「吉田朗展」を開催致します。吉田朗は主にFRP(ガラス繊維強化プラスチック)にエポキシ樹脂を施した立体作品で、人間や現代社会が抱える問題や矛盾を風刺的に表現するアーティストです。彼の作品はどれも一見親しみやすくポップに見えますが、そこにはいつも観る者をドキりとさせるようなアイロニーが込められています。見かけと中身、表面と内実の強烈な対比が吉田作品の魅力です。今展では人気作品「ダルマ」シリーズに加え、新作「エビ子供」シリーズも展示致します。「ダルマ」はギリシャ経済危機の際にニュースなどでちやちやれた「バスケットケース(basket case)」という表現からインスピレーションを受けて制作されました。「バスケットケース」は戦場で両腕・両脚を失い担架で運ばない兵士を指す言葉が転じて、巨額の財政赤字で苦境に陥る国を指します。それを福島第一原発事故以降の日本の状況に当てはめたのが「ダルマ」シリーズです。手足のない「バスケットケース」という状態を日本的な「ダルマ」へと形状的にすり替え、さらにその「ダルマ」を溶けていく形相に発展させたことで「手も足も出ない上に溶けてしまっている」という厳しい現代日本の状態を表しています。「ダルマ」シリーズの制作をする一方、吉田氏は2011年の東日本大震災以降、世界が少し変わったような感覚を持つようになりました。これまでの想像を超えるような様々な事象が次々と発生し、それらが駆けるスピードはどんどん加速するのに対し比例するかのよう、ひとつひとつの事象の重みは軽くなるというものです。「猛烈なスピードで移りかわっていく世界の中で起こる一つ一つの出来事を直接的に作品化するよりも、少し変わってしまったような「世界」そのものを表出する方がより現在の状況を表現できるのではないか」と考え、これまでの「事象に対する直線的なアイロニー」という手法から、あえて「ジャンプ系、カオティックな状況」を作品に持ち込む」という方法で現況性を表現しようとしてきました。その中で生まれたのが新作「エビ子供」シリーズです。作品そのものの素材や表現手法は統一されていますが、表現の仕方が異なるアーティストの変化が鮮やかにご覧頂ける作品群の展示となります。新作目録6点を発表予定です。つきましては、是非、貴誌上で掲載いただきたく、何卒ご検討下さいませようお願い申し上げます。

敬啟

「吉田朗展」 2016年4月18日(月)～4月30日(土)

開場時間: 11:00～19:00 (最終日は17:00まで) 日曜・祝日休場
会場: Hideharu Fukasaku Gallery Roppongi (ヒデハルフカサクガヤラニー六本木)
住所: 〒106-0032 東京都港区六本木7-8-9 深澤眼科ビル1F・B1
電話: 03-5786-1505
FAX: 03-5786-1506
料金: 入場無料
\*協力: ユカリアート
\*アーティストの活動に関するお問い合わせはユカリアートへお願い致します。
http://yukari-art.jp E-mail: info@yukari-art.jp



《本リリースに関するお問い合わせ》取材依頼、画像貸し出し、ご不明点などございましたらお気軽にお問い合わせください。

Hideharu Fukasaku Gallery Roppongi

PRESS
[電話対応時間] 月曜日～土曜日 11:00～19:00 日祝休み
住所: 〒106-0032 東京都港区六本木7-8-9 深澤眼科ビル1F・B1
TEL: 03-5786-1505 FAX: 03-5786-1506
http://www.f-e.jp http://www.facebook.com/hfgrppongi
E-mail: hfg@fukasaku.jp
\*都営大江戸線「六本木駅」8番出口目の前
\*東京メトロ日比谷線「六本木駅」4a出口より徒歩3分
\*東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩3分

Profile

吉田 朗 Akira Yoshida

【経歴】
1976年 神奈川県生まれ
2002年 多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業
EXHIBITIONS & ART FAIRS

【主な個展】
2002年 「Carbon X sushioke」, マキヤマサルファインアーツ, 東京
2004年 「JFL」, ギャラリーエース, 東京
「キングダムスターの逆襲」, マキヤマサルファインアーツ, 東京
「個人展第1回」, Brickの森, 東京
「運動彫刻」, ギャラリーエース, 東京
2005年 「福島の祭」, マキヤマサルファインアーツ, 東京
2007年 「犬張子展」, ギャラリーエース, 東京
2008年 「仏蘭でクリスマス」, ユカリアート・コンデンソロジー, 東京
2011年 「吉田朗展」, ユカリアート, 東京

【主なグループ展】
2002年 「Thrift pop」, Lafont Museum, 東京
「16.8 嵐」, 日比谷川百鬼店, 神奈川
2003年 「FRONT BRIDGE」, 前橋文化研究所, 群馬
「SAGAMIHARAR OPEN STUDIO」(相模原市より招聘), 相模原市民ギャラリー, 神奈川
「FRONT BRIDGE II」, 前橋文化研究所, 群馬
2004年 「春祭りカノノ」, Gallery Barco, 東京
2005年 「船高 代官山 opening」, EMA daikanyama, 東京
「福島の祭」, EMA daikanyama, 東京
「動物幻想曲」(相模原市より招聘), 相模原市民ギャラリー, 神奈川
2006年 「ランチ」, AXIS Gallery ANNEX, 東京
「福島の祭」, 岩国市より招聘, 岩国市錦帯橋周辺, 山口
「FRE」, Galeria Punto, 東京
2007年 「ZERO」, SPACE ZERO, 東京
「LE MONDE COCO 現代アーティストたちによるココの世界」, CHANEL NEXUS HALL, 東京
「FRE 2007」, Galeria Punto, 東京
2008年 「ゼロ」, 旧日本銀行広島支店, 広島
「幻燈動物王国」, ユカリアート・コンデンソロジー, 東京
「The House」, 日本ホームズ住宅展示場, 東京
「NETWORK PROJECT JAPAN」, inter alla Art Contemporary, 韓国
「FRE 2008」, Galeria Punto, 東京
2009年 「野外芸術展 川で芸術」, 基町環境博覧会, 広島
2010年 「ANIMAMIX BIENNIAL 2009-2010」, Museum of Contemporary Art, Shanghai, 上海, 中国
「第1回 一石井生 追憶記念展 - 備材料専攻卒業生と共に」, 多摩美術大学美術館, 東京
「FRE 2010」, Galeria Punto, 東京
2011年 「ジャンク展-31人の気取作家が切り拓く、現代日本のアートシーン-」, 高島屋, 東京, 大阪, 京都
「FRE 2011」, Galeria Punto, 東京
2013年 「042 art area project 2013 スーパーオーブンスタジオ」, 相模原市内各所 (相模原)
2014年 「Sweet Paradox」, Mizuma Gallery (シンガポール)
「042 art area project 2014 スーパーオーブンスタジオ」, 相模原市内各所 (相模原)
2015年 「042 art area project 2015 スーパーオーブンスタジオ」, 相模原市内各所 (相模原)

【主なアートフェア】
「ANIMAMIX BIENNIAL 2009-2010」, Museum of Contemporary Art, Shanghai, 上海, 中国
「第1回 一石井生 追憶記念展 - 備材料専攻卒業生と共に」, 多摩美術大学美術館, 東京
「FRE 2010」, Galeria Punto, 東京
「ジャンク展-31人の気取作家が切り拓く、現代日本のアートシーン-」, 高島屋, 東京, 大阪, 京都
「FRE 2011」, Galeria Punto, 東京
「042 art area project 2013 スーパーオーブンスタジオ」, 相模原市内各所 (相模原)
「Sweet Paradox」, Mizuma Gallery (シンガポール)
「042 art area project 2014 スーパーオーブンスタジオ」, 相模原市内各所 (相模原)
「042 art area project 2015 スーパーオーブンスタジオ」, 相模原市内各所 (相模原)

【主な受賞・入賞】
2000年 「たけのぼろでピカソ美大対抗アートバトル」, 福岡, テレビ東京

Commission Works
【主なコッモンワーク】
2004年 panasonic FOMA p900i カスタムジャケット制作、(株)パナソニック(モバイルデザインより依頼)

COLLECTION
【コレクションレクレーション】
香港MTR(香港鉄道)有限公司, City One駅に作品を恒久展示
西銀座チャンスセンター(日本の宝くじ売り場)でジャンプ宝くじが発売される際に展示される招き猫「宝猫」を制作

《本リリースに関するお問い合わせ》取材依頼、画像貸し出し、ご不明点などございましたらお気軽にお問い合わせください。

Hideharu Fukasaku Gallery Roppongi

PRESS
[電話対応時間] 月曜日～土曜日 11:00～19:00 日祝休み
住所: 〒106-0032 東京都港区六本木7-8-9 深澤眼科ビル1F・B1
TEL: 03-5786-1505 FAX: 03-5786-1506
http://www.f-e.jp http://www.facebook.com/hfgrppongi
E-mail: hfg@fukasaku.jp
\*都営大江戸線「六本木駅」8番出口目の前
\*東京メトロ日比谷線「六本木駅」4a出口より徒歩3分
\*東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3番出口より徒歩3分



右、タイトル:「エビ子供」2016 素材:ガラス繊維強化プラスチック 塗料:ウレタン塗膜エポキシによる彩色 サイズ:H91xW76xD28cm